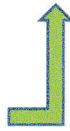


水疱は破らない。(細菌が入り2次感染のおそれを防ぐため)

★赤くなっている面積が広い。水疱ができています。皮膚がむけた。



◎診療時間内に病院へ

★ぐったりして熱がある。脱水症状を起こしている。



◎できるだけ速やかに病院へ

## ☆虫刺され☆



乳幼児は皮膚の抵抗力が弱く、蚊に刺されただけでも強いかゆみや痛みを伴い、発熱することもあります。また、ハチなどの虫に刺されたりすると、激しい炎症反応を起こすことがあります。しっかりと予防対策をしていきましょう。

<予防対策>

- ・ハチが攻撃しやすい黒っぽい服を避け、帽子、長袖長ズボンで肌の露出を減らす。
- ・虫が好む水たまり周辺で遊ばせない。虫よけスプレー、虫よけシートでガードする。
- ・むやみに海の岩場や山野、河原の草地など生息する場所に近寄りたり手や足を入れない。クラゲや見たことのない虫に触れない。
- ・お盆が明けると、クラゲや毒のある生物が出ると言われていますが、最近では盆前からも発生しています。クラゲや毒のある生物が出る時期には海に入らない!
- ・ダニやシラミを寄せ付けないように、家の掃除をこまめにする。

◎今回は、ハチに刺された時の応急処置についてお話します。

ハチに刺されたときの応急処置の仕方

- ①毒針をピンセットや手袋などで抜く(素手は✖️口で毒を吸う✖️)。針が発見できない時は無理やり患部をえぐるとかえって悪化。そのままの状態を受診する。
- ②流水で毒を取り除く。(アンモニアをかける✖️)
- ③冷やしてかゆみを和らげる。(冷たい水で絞ったタオルをあてる。)
- ④シヨック状態にないか経過観察をする。(強いアレルギー一症状は、刺されてから30分以内に起きます。吐き気や呼吸困難などの症状がないか観察。)

★虫に刺されたときにやっつけてはいけないこと

・爪でかきむしる。(患部に細菌が感染し、とびひになることがある。)

◎クラゲに刺されたらどうする?

- ①すぐに海からあがる。(急に意識がなくなったり、溺れない為)
- ②ピンセットや手袋で触手を抜く(素手✖️)。抜けなければ海水で洗い流す。

刺された場所は、海水につけたまま応急処置をする。(真水✖️)。



119番に連絡!!

- ・呼吸が苦しうになる
- ・顔色が真っ青になる。嘔吐する。
- ・意識不明になる。
- ・シヨック状態になる。

◎できるだけ速やかに病院へ

- ・赤く腫れあがって痛がっている。
- ・大量に刺された。
- ・ハチやアブなどに刺された。

※その他にも海や山には毒のある生物や危険なものがたくさんあります。

※病院ではわかる範囲で何に刺されたか、又はどのような形状の物に

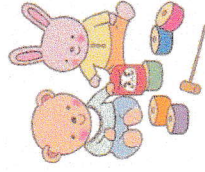
刺された触れたかなどを伝えましょう。

## ☆誤飲☆

誤飲と誤嚥の違いは何?

「誤飲とは…飲み込んではいけない異物を飲み込んでしまうこと。」

「誤嚥とは…飲み込んだ飲食物などが食道ではなく気道に入ってしまうこと。」



今回は誤飲についてお話します。誤飲の大半は、1歳前後の歩き始めて行動範囲が広がる乳幼児に集中して発生しているので特に注意が必要です。

<たばこ>

- ・吸い殻の誤飲でニコチンが体内に吸収されることで、けいれん、呼吸困難などの中毒症状を起こします。